

9月18日 第35回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

国立墓苑で非戦平和誓う

国籍や民族、思想・信条の違いなどを超えて、すべての戦争犠牲者を追悼し、非戦の誓いを新たにします。第35回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が9月18日、ご門主ご親修のもと、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で営まれる。宗門では「戦後70年にあたり、悲惨な戦争を再び繰り返してはならない」という平和への決意と、いのちの尊さへの思いを新たに

するために、ぜひご参拝を」と呼びかけている。日程は、午後0時45分から2時15分まで。宗門校の生徒が法要に寄せて綴った作文を朗読。仏の教えと平和への決意が響き渡ることを願う「平和の鐘」が撞かれ、石上智康総長

が平和宣言を行う。引き続き法要が営まれる。おつとめは正信念仏偈（音楽依用）。同法要は1981年から毎年9月18日に同墓苑で営んでいる。同墓苑へは、東京メトロ・東西線「九段下駅」、「半蔵門線」九段下駅「半蔵門駅」、都営地下鉄・新宿線「丸の内線」からいづれも徒歩10分。

問い合わせは本山・所務部〈文書担当〉☎075(371)5181。

宗門では、法要の思いを共有してもらいたいと、「平和の鐘」を撞く同時刻（午後1時15分から5分間）に、

全国の寺院などに鐘を撞いてほしいと広く呼びかけている。

「平和の鐘」全国に呼びかける